

「潜在的国際人」になろう

夏期
セミナー

その中で一番思い出に残ることは、ホームステイの経験です。

1歩は、自分のことを良く知ってもらうことです。そのときに役立つものは、自分の写真とじたアルバムです。百円ショップで写真をとるファイルを買ってきて、マイアルバムを作成してください。それを見せ

ながら、家族のこと、旅行へ行った時のこと、かわいいうべつのことなどを紹介すると英語での会話が弾むでしょう。次に役立つものは、自分の身の回りにある小物グッズでかきざらないものです。日本固有の民芸品、海外で有名なもの、アニメのグッズなどを紹介するとさらに会話が弾むでしょう。

第2歩は、ホストファミリーを質問攻めにするということです。そのときは、これは何、この人は誰、これはどのようにして作るのなどと、子どもになったつもりでがんばり質問をしてください。相手に親しみをもち、外国人と話すことが恥ずかしくなくなってきました。瞬く間に過ぎてしまう5週間、このことができたなら大きな収穫が得られたといえるでしょう。

情報システム学科長 岸野 清孝

派遣
留学

知ったとき、日本そして日本人を客観的に見る

で、世界をどんなに見て感じてきてもらいたいと思っています。現地では言葉の壁や不慣れな日常生活から、最初はカルチャーショックという苦しみを経験するかもしれませんが、未知の世界を知りたいという好奇心と、若さと、行動力があれば乗り越えられます。

私のフランスへの留学経験から、一つだけアドバイスをするとすれば、外国では「はつきりものを言う」ことが大切です。日本人のように遠回しな言い方で話していたら、相手にこちら

の意思が伝わらない。「イエス」「ノー」をはっきり言え、いいし、外国語ならそれがいいやうい。

留学先の大学で大いに学び、外国人学生と積極的に交流し、語学を上達させ国際感覚を身に付けて、帰国後は日本社会を批判的に見ることもできる「潜在的国際人」、つまり、これからの日本を背負う異文化理解のキーパーソンになることを期待しています。

情報文化学科長 小山田 紀子

異文化に飛び込んで交流

視点を得ることができるでしょう。同時に日本人から見ても、ロシア・中国・韓国・アメリカはどんな国に映るのでしょうか。

感受性豊かな若い時代に、異文化の中に飛び込ん

交流し、語学を上達させ国際感覚を身に付けて、帰国後は日本社会を批判的に見ることもできる「潜在的国際人」、つまり、これからの日本を背負う異文化理解のキーパーソンになることを期待しています。



カナダ



中国



ロシア

CONTENTS

〔2・3面〕

海外派遣奨学金の授与と壮行会
8月から5カ国へ出発の53人が決意
カナダ・アルバータ州立大から表敬

〔4・5面〕

私の研究テーマ
お勧めBOOK
新企画「NUIS学園探訪」
教員の活動(2010年上半期)

〔6・7面〕

公開講座「映画のなかの市民社会」
平成23年度入試日程概要一覧
オープンキャンパス案内
18人に表彰奨学金
新入生が1泊2日の合宿研修

湧源・編集後記に代えて

〔8面〕

国際交流フェア開催報告
スポーツ大会を終えて
卒業生の便り

語学力を磨く

派遣留学・海外夏期セミナー壮行会



派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）に間もなく出発する学生たちへの奨学金授与式と壮行パーティーが6月16日、本校の国際交流センターで開かれました。

今年度はカナダ・アルバータ大学へ9人、アメリカ・ノースウエスト・ミズーリ州立大学へ16人、韓国・慶熙大学へ11人、ロシア・極東国立総合大学へ7人、中国・北京師範大学へ10人の合計53人が初体験の海外留学に挑戦し、8月1日のカナダを皮切りに順次出発します。

奨学金授与式では、各コースの担当教員から学生が紹介され、平山征夫学長がコースの代表5人に奨学金証書を贈り激励しました。

壮行パーティーでは、学長、越智敏夫学部長はじめ関係教職員と学生たちが和やかにテーブルを囲み、お互いの健闘を誓い合うなどして活気にあふれました。各コースの代表から決意表明があり、留学への期待と意気込みが披露されました。

（写真は壮行パーティー）

平成22年度のスケジュール表（出発順）

国名／留学大学	留学期間	参加人数
カナダ アルバータ大学 生涯教育学部	平成22年8月1日～ 9月5日（5週間）	情報システム学科 2年次学生 9人
アメリカ ノースウエスト・ミズーリ 州立大学教養学部	平成22年8月24日～ 12月19日（約17週間）	情報文化学科 2年次学生 16人
韓国 慶熙大学国際教育院	平成22年8月29日～ 12月24日（約17週間）	情報文化学科 2年次学生 11人
ロシア 極東国立総合大学	平成22年8月28日～ 平成23年1月8日（約19週間）	情報文化学科 2年次学生 7人
中国 北京師範大学 歴史学院	平成22年9月11日～ 平成23年1月15日（約18週間）	情報文化学科 2年次学生 10人
参加学生数合計		53人

海外留学・セミナー参加学生の累計

	中国	韓国	ロシア	アメリカ	カナダ	計
平成 7年度	29	14	7	13		63
平成 8年度	15	13	20	17		65
平成 9年度	31					31
平成 10年度			7	14		21
以上 海外研修計	75	27	34	44		180人
平成12年度	30				20	50
平成13年度	15	12	6	17	14	64
平成14年度	17	9	3	13	17	59
平成15年度	（中止）	4	1	11	6	22
平成16年度	31	7	2	13	8	61
平成17年度	18	13	5	12	22	70
平成18年度	9	5	0	7	3	24
平成19年度	16	10	12	25	9	72
平成20年度	9	7	9	12	13	50
平成21年度	6	4	11	13	12	46
平成22年度	10	11	7	16	9	53
計	161	82	56	139	133	571人
合 計	236人	109人	90人	183人	133人	751人

カナダへ

企業訪問も 大いに楽しみ



情報システム学科
曾川 直紀

楽しみにしていた留学出発まで2カ月を切りました。この貴重な時間を有意義に過ごすために、三つの目標を定めました。

一つは、これまで日本にいただけでは感じることのできなかつた、違う文化の中で生きてきた多くの人の考え方を学ぶことです。そのために、英語クラスの先生やアルバータ州立大学の学生、ホームステイ先のご家族

など、自分から積極的に多くの人と英語でコミュニケーションをとりたいと思っています。そして日本にいただけではなかなか学べないネイティブ英語を、可能な限り身に付けて帰ってきたいと考えています。

また、このカナダ留学中にはカナディアンロッキツアーやカナダ企業の訪問など、日常では経験できないイベントが数多くあります。

そこで二つ目の目標として、このチャンスを無駄にせず、楽しく多くのことを学ぶということです。そのために、受け身でなく積極的にイベントに参加し、さまざまな経験を積みみたいと思っています。さらに、留学中は寮での生活とホームステイ

を経験します。三つ目の目標は、考え方や生活様式が全く異なる人と、どのようにすればうまく共同生活できるのか、しっかりと学んでくるといことです。これらの三つを目標にし、将来、就職活動などに役立てられるようにしたいです。

ロシアへ

積極的に会話 国際交流楽しむ



情報文化学科
金子 月香沙

私たちは、ウラジオストクにある極東国立総合大学のルース

カヤシニコラという学校でロシア語やロシアの歴史、社会史、芸術などを学ぶことになりました。

留学するにあたり一人ひとりが向上心と意欲を持って授業に取り組みたいと思います。授業では積極的に発言して参加し、また極東大学の先生や学生たちと積極的に会話し、語学向上に励みたいと思います。極東大学

いす。最後に、留学に際し多くの期待と不安がありますが、一緒に留学する仲間と助け合い、経験できることを多く吸収して有意義な留学生活を送りたいと思っています。

5カ国へ53人が挑戦 8月から順次出発

大きな不安があると同時に、どんな経験ができるか、どんな出会いがあるか、大きな期待を感じています。4カ月という短い期間ですが、異国の地で生活する貴重な経験を通して、一緒に学ぶ仲間とともに大きく成長して帰ってきたいと思っています。

には私たち日本人学生だけでなく、中国人や韓国人などの学生も在学していますので、そのような他国の学生たちとも積極的にコミュニケーションをとり、国際交流を行いたいです。

留学中に行われるイベントもとても楽しみにしています。ロシアではトラに仮装して街を練り歩く行事があります。その他の新年行事やクリスマスなどのイベントにも参加したいです。

このようなイベントを通じて、ロシアの文化や習慣を肌で感じたいと思います。

未知の世界で 楽しく

韓国へ



情報文化学科 谷 慎明

成長して
帰国します

がら留学生を送り、皆が大きく成長して帰国してくることを期待していただきます。また、無事に留学生生活を送って、無事に帰国できることを祈っています。

中国へ



情報文化学科 高波 優也

真の姿を
見てきたい

私たちは、8月29日から12月24日までキョンヒ大学へ留学に行ってきます。留学にあたり、あらためて日本人としての自覚を持ち、日本人として恥じない言動を心がけたいと思います。キョンヒ大学には、さまざまな国から留学生が来ているので、自ら積極的に話しかけ、異文化理解を深め、国際交流を通して友達をつくりたいと思います。一人ひとりが目標・目的を持ち、互いに励まし、高め合います。

授業中は当然のこと、それ以外でも日本以外の国の人と話すのにも中国語しか使えないという環境に身をおくことで、語学力を上昇させたいと思っています。それと、いろいろな国の友達

をつくらうと思っています。異文化と触れ合える良い機会なので、留学中に暮らす寮では日本人以外の人との相部屋を希望しています。私はまずその人と仲良くなり、さらにほかの人にも積極的に話しかけ、留学後も関係が続くような友達をつくりたいと思っています。私が留学する一番の目的は、もともと中国を知りたいということです。ニュースで報道される中国は、貧富の差が激しいとか、著作権を守らないというような悪い面が目立っています。しかし、私はこれまで中国について学ぼううちに、それは一面でしかないということを知りました。中国には良い面もあるし、悪い面にしてもニュースでは語られない背景があります。ニュースでは中国の一部が強調されるだけで、実際の中国を知

アメリカへ



情報文化学科 齊藤 聖史

将来の夢の
実現のために

私は、アメリカで生活することと英語力を今以上に向上でき、また良い刺激が与えられると思い留学しようと決めました。私には大きく二つの目標があります。一つ目は、疑問に思ったことや自分の意見を、現地の人に積

極的に話しかけることです。私はアドバンスド・セップを履修しているのですが、授業内容は自分にとってとても難しいです。しかし分からないことはなるべく、ポールやマイクに英語で質問するように心がけています。留学先でも分からないことがあると思います。そういったときは積極的にインストラクターやルームメイトと、なるべく英語で話したいと思います。二つ目は、将来のためにさまざまな国の文化を知ることです。私の将来の夢は、まだ漠然としているのですが、ツアーコンダクターという仕事に就きたいと考えています。その理由は、世界中の人に日本はこんなにすばらしい国だと知ってもらい、また、さまざまな国の人と出会うことができ、やりがいのある仕事だと思うからです。そのためには、リスニングやライティングなどといった語学力はもちろん、さまざまな国の風習などをしっかり把握しておかなければなりません。アメリカに行くことにより、アメリカの生活習慣だけでなく、さまざまな国の事について直接学ぶことができそうです。英語を学びに行くだけでなく、英語を使っている人なことを学んできたいと思います。



膨らむ夢にアドバイス

海外夏期セミナー（情報システム学科）の留学提携校であるカナダ・アルバータ州立大学から5月12日、留学エクステンションセンター英語学習プログラム担当をされているMimi HuiさんとMark Bellさんが本学を訪問し、留学を希望している学生たちと親しく懇談しました。

2人には早速、来年度の海外夏期セミナー参加対象となる1年生に向けて、カナダでの滞在や大学での学修について具体的にやさしく説明していただきました。平山征夫

学長を表敬したあとに、海外夏期セミナー担当教員らと会食をし、午後には本年度のセミナー参加予定の学生に対して説明会を行いました。

説明会に参加した学生たちは、再び現地でお世話になるMimiさんとMarkさんと楽しい時間を過ごし、留学に対する不安が解消し、期待を膨らませていました。

アルバータ州立大から留学担当者が来校

4カ月もの長い間、アメリカで生活ができるのは両親や、留学にいけるようにサポートしてくれた方々の協力があったからです。感謝の気持ちを忘れずに、一日一日を大切に、みんな楽しんできたいと思っています。

私の専門分野は文化人類学であり、南アジア地域（インド）を対象として、近代化とジェンダーの問題を、「身体」に着目して研究を行っています。特にリプロダクティブヘルスと呼ばれる、性と生殖に関する実践が、近代化のなかでどのように変容していくのかを、開発や先端医療技術の導入というハードな変化だけではなく、宗教や民間信仰の次元からも明らかにしようとするものです。

インドを手掛かりに他者について考える

情報文化学科・講師 松尾 瑞穂

時はまだ）訳の分からない内容に圧倒されて、「何これ、おもしろそう！」と文化人類学の世界に飛び込んで以来、私の研究関心はずっと「他者」にあります。

最近では、インドにおける科学技術ナショナリズム（科学技術の成功が国家の威信にかかわり、国民意識を高める動き）をインドの宗教や世界観から読み解き、生命科学の文化・社会論を構築することを目指しています。

高校生のときに目に入った大学案内のパンフレットに書かれた、「呪術」やら「二次葬」やら「複婚」やらの（当

でもあるはずですが、私はインド社会をひとつの手掛かりとして、日本社会の相対化と人間存在の多様性に迫りたいと思っています。

グローバル化で地球はますます小さくなり、世界はどんどんフラットになり、大航海時代のようなエキゾチックな他者像は徹底的に解体されたとしても、他者がいなくなることはないでしょう。他者とはひとつの概念であり、自己が世界と出合うときに不可避に立ち現れるものだからです。自分が抱く自明性を揺るがされるからこそ、「なぜ？」という分からなさや不安がかき立てられるのだとしたら、他者と出会うことは自分を知ることでもあるはずですが、私はインド社会をひとつの手掛かりとして、日本社会の相対化と人間存在の多様性に迫りたいと思っています。

『企業成長の理論』（第3版）

エディス・ペンローズ著
日高 千景訳

ダイヤモンド社

本書は、Edith Penrose(1995), The Theory of the Growth of the Firm, Third Editionの翻訳である。私が同書（の初版・1959年）に出合ったのは研究者を志そうとしていた時だった。同書を読み衝撃

お薦めBOOK



を受けたのを今でも覚えている。

本書の射程は幅広いが、特に興味深いのは合併によらない内部成長についてである。以下、要約である。

Penroseは企業成長の源泉として組織のもつ資源、なかでも人的資源に光をあてる。人は企業で仕事を積み重ねていき知識を成長させていく。これが、その

人の経営環境の見方や経営資源の使い方に反映される。同じような環境でも企業によって戦略が異なるのは、仕事の経験を通じてその人あるいはその企業固有の知識が蓄積され、環境の見方が違ってくるからである。つまり、企業の成長は社員や経営者といった人の知識の成長次第である。

少し前に、NHKのあ

る番組でユニクロの特集をしていた。柳井会長は「成長するとは生き残ること」と語り、世界で活躍できる人材の育成を強調していた。生き残るにはそのための戦略が必要であり、その戦略は人によってつくられる。名経営者といわれる人ほど人的資源の重要性を指摘する。本書は、いま現在成長を続けている企業を理解するうえでお薦めである。

（情報システム学科・准教授 大野 富彦）

本学図書館のWEBサイトに個性あふれる教員たちの紹介文が載っています。アクセスしてみてください。

<http://www.nuis.ac.jp/ic/library/book/book.htm>

3) その他

安藤 潤(情報文化学科・准教授)

・教科書 (2010)「入門 現代経済学要論」白桃書房(共著者:青木孝子、塚原康博、鍵田亨、全182頁)、担当:「第2章 国民所得水準の決定」(9-41頁)、「第5章 経済成長」(79-84頁)、「第6章 マクロの経済政策論」(85-90頁)

區 建英(情報文化学科・教授)

・講演 (2010年3月26日)「日本における中国研究」と「日本思想研究」について(中国暨南大学文學院歴史学部)
・主編者 (2010年6月)「信頼・互惠・共生—東亜地区的歴史と現実」中国伝媒大学出版社(2008年新潟で開催された本学と北京師範大学の国際シンポジウムの内容を編集したもの)

大野 富彦(情報システム学科・准教授)

・報告書執筆 (2010年6月)「アビーム・グローバル・ディベロップメント・センター西安」中央大学ソフトウェア・オフショアリング共同調査チーム「中国経済」JETRO(141-144頁:163頁)
・研修講師 (2010年4月13日)株式会社トップカルチャー新入社員研修講師「業務改善、新規事業計画(企画)に役立つ問題発見・解決手法」

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

・講演 (2010年2月18日)「政権交代と市民政治の課題:2009年総選挙の意義」新潟県選挙管理委員会主催(新潟県自治会館)

・講演 (2010年3月7日)「これからどうなる 政治と私たちの暮らし」(岡野八代氏との公開討論)明るい選挙推進講演会主催(ほんぽーと 新潟市中央図書館)
・講演 (2010年3月13日)「市民とは誰か—シチズンシップとは」アルザにいがた 新潟市男女共同参画推進センター主催(新潟市万代市民会館)
・基調講演およびパネルディスカッション司会 (2010年5月3日)「憲法とは何か:その過去と現在」JC新潟ブロック協議会主催「憲法タウンミーティング」(新潟県民会館小ホール)

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

・講演 (2010年2月22日)「沖縄を考えることの意味」中央大学国際交流センター主催「第13回平和とセミナー」(中央大学)
・基調講演 (2010年3月3日)「Comprehensive Peacebuilding Initiatives of Young Leaders in Asia and Oceania: The Potentials of Culture and Education」国際交流基金 JENESYS East Asia Future Leaders Program 主催(新宿ワシントンホテル)
・国際シンポジウム司会 (2010年5月1日)「光州民衆抗争30周年特別シンポジウム—抵抗と平和」韓国全南大学校民主・人権・平和センター主催(韓国全南大学校)
・講演 (2010年5月3日)「<生き方>としての9条—平和憲法で日本と世界をつくり変えるレシビ」憲法記念集会にいがた実行委員会主催(クロスバールにいがた)
・司会と討論 (2010年6月5日)「今、沖縄とどう連帯すればいいのか—本土市民とメディアの役割」(報告:岡本厚)市民文化フォーラム主催(日本教育会館)
・講演 (2010年6月12日)「憲法9条によって描く、新しい世界の姿」9条しばた市民ネット主催(新発田北新支部会館)

「マルチメディア情報処理」

人、モノ、情報などについて紹介する新コーナー。学園内外を訪問してホットな話題づくりをします。

今回は情報システム学科の桑原悟教授に「マルチメディア情報処理」の授業について伺いました。

情報システム学科3、4年生への講義、222教室のスクリーンに「ハリーポッターと賢者の石」の一部が上映されました。魔法学校の副校長ミネルバ・マクゴナガル先生が、猫の姿から人間に変身していく過程の映像をつくる技術的な仕組みであるモーフィングなどの画像処理の実際の場面を実感しました。

もう1本はスタジオジブリの「ギブリーズ」デジタル技術解説。超激辛カレー店のシーンで背景のぼかし、カレーや立ち上る湯気のセル画とは違った動きや質感。パーティクル(つぶつぶ粒子)、2D・3DCGなどの画像処理でデジタル合成された、アーティストとエンジニアが競った実験的な作品です。

別の日は遠隔操作の授業。在京のプロの漫画家と遠隔地ネットで結びPhotoShopのソフトの実際の使い方を教えてもらおうという試みです。ネットワークやパソコンの性能などの検証を兼ねた実験的な授業でした。

桑原先生の専門は情報セキュリティ、情報システム構築、リスク研究など。大学の前には三菱電機の情報処理システム技術センターや米ロサンゼルスに海外現地法人に勤務したことがあります。企業人としての経験や人脈が授業でも生かされているようです。

〈どんな授業ですか？〉

アミューズメントやエンターテイメントといわれる分野に関する情

ハリーポッターもジブリも登場

報処理について学びます。

具体例としては、アトラクション、アニメ、映画などに使われるCG (Computer Graphics)、音楽プレーヤなどにも使われているPCM (Pulse Code Modulation)、MP3 (MPEG Audio Layer-3) などの記録/再生方式について、また、プロジェクタやCRTおよび液晶ディスプレイなどの表



面白い!すごい!授業

最新のICTを正しく理解

示装置について、それらの構造と利用されている原理や導入されているアイデアを取り上げます。

〈どんな視点での授業ですか？〉

身近な製品や技術が対象ですので、「すごいなあ」「どうなっているのだろう」と思った人も少なくないと思います。その「すごい」が実際にどうなっているのかを伝え、「そうだったのか」と理解することができるよう授業を構成しています。

〈どんな役に立つの？〉

最新のICTを正しく理解することは、これからの情報化社会を担う若い人たちに必要なことの一つだと考えています。

そしてさらに、会社などの組織内の業務処理が深くかわる、いわゆる情報システムとは違って、アミューズメントやエンターテイメントといわれる分野は、学生にとっても興味ある身近なものでしょう。この世界はまだ発展途上、試行錯誤の世界です。先人の知恵やアイデア、元になる原理などに触れた上で、将来、自分のアイデアを方式や製品として世に出そうと挑戦する学生も出てくればと期待しています。

〈外部講師も大いに活用？〉

例えば、ソフトウェアと特許の関係について、この方面の現役の弁理士の方を外部講師として招いて、授業を1回(90分)行っています。

将来、企業人として働く人にとっても、アントレプレナー(自立創造型の企業家)として起業する人にとっても、特に大掛かりな設備を必要としないソフトウェアの分野で、価値の大きな成果を出し、これが正当に評価され世に出すために有効な「特許」は、これからの時代ますますその重要度を増していきます。自分の築いた知的財産をどう保護し活用するか、このことについての知見を得てもらうことも授業に盛り込んでいます。

教員の活動(2010年上半期・本人申告による)

1) 研究論文・図書

安藤 潤(情報文化学科・准教授)

- ・(2010)「アイデンティティと夫婦間の家庭内労働分担行動」千田亮吉・塚原康博・山本昌弘 [編]「行動経済学の理論と実証」勁草書房(72-100頁・333頁)
- ・(2010)「近年の消費者行動」『平成不況』文真堂(106-126頁・225頁)

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

- ・(2010年7月)「地方自治体の安全保障」(共編著)明石書店(全253頁)

白井 健二(情報システム学科・教)

- ・計測自動制御学会産業論文に下記の論文を5/26投稿しました。
「企業における収益率に対する経済物理学的考察」白井健二、天野佳則((株)京南エレクトクス)

2) 学会・研究会報告

大野 富彦(情報システム学科・准教授)

- ・(2010年6月6日)「お客様相談室の価値創造—米菓企業のケース・スタディー—」2010年度

経営情報学会春季全国研究発表大会(東京工業大学)

小山田 紀子(情報文化学科・教授)

- ・(2010年5月8日)「アルジェリアの独立とフランスへの『引揚者』—ビエノワールとハルキを中心—」移民と社会—フランスを中心に—研究会(宮島喬教授主催の科研費プロジェクト)(法政大学)

佐々木 桐子(情報システム学科・准教授)

- ・(2010年5月30日)「道路整備計画案の交通流シミュレーション分析」日本情報経営学会 第60回全国大会(北星学園大学)
- ・(2010年6月5日)「災害等非常時における交通流解析」日本経営システム学会 第44回全国研究発表大会(東海大学)

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

- ・(2010年1月27日)「ウルリッヒ・ベック『ナショナリズムの超克』を読む」政治理論研究会(新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス)

今年のテーマは「家族」

公開講座

映画のなかの市民社会

1999年に始まった公開講座「映画のなかの市民社会」も12年目である。新潟市の映画館シネ・ウインドで上映される映画を題材として本学新潟中央キャンパスで連続講義をおこない、市民社会のあり方について議論しようというものだ。今年6月10日、17日、7月1日に開催された。毎年「暴力」「ジェンダー」「差別」といったテーマのもとに一連の映画が選ばれてきた。

一般的に市民社会は国家と家庭に挟まれた空間として説明される。そしてその空間をより良くするために共同で活動する人たちが市民だとされる。そこで今年度は国家と対峙する組織としての家族について考えることによって、市民社会が抱える問題を議論することになった。また、家族のような組織については自らに属するものだけを当然だと考えがちである。そこで日本の家族観と比較検討するためにフラン

ス、インド、アメリカの映画が選ばれた。「ずっとあなたを愛している」は「灰色の魂」

などで知られる小説家フイリップ・クロードの初監督作品である。息子殺しの罪で15年の刑期を終えた母をフランスの市民社会はどのように受け入れるのか。家族愛と救済という重いテーマを扱った本作について、FMラジオ局で社会問題を語

ク大学文化人類学部のアン・アリソン教授も議論に飛び入り参加し、彼女のテーマである日本の家族制度(とその壊れかた)と本作を関連させながら興味深いコメントを提供した。

仏・印・米の3作品で日本の家族観と比較検討



り続けている遠藤麻理さんが講演した。当日は新潟でフィールド調査をおこなっていた米国デュー

系と市民社会としてのインドの関連、軋轢(あつち)を指摘した。アメリカ北部の貧しい

町に住む2人の女性が家族を守るために犯罪に手を染める映画「フロリーズ・リバー」についてはカリフォルニア大学ロサンゼルス校歴史学部のウイリアム・マロツティ准教授が日米比較の視点も交えながら講演した。特にアメリカ史の「残余」としてのネイティブ・アメリカンと、幸福な家族の「残余」としての主人公の立場を重ね合わせながらアメリカ市民社会の実像について考える講演となった。

1つの視点をもった研究で評価の高い松尾さんは、インド社会特有の家族制度、親族構造を説明しながら、映画のなかに満ちあふれる濃密な愛情関係と市民社会としてのインドの関連、軋轢(あつち)を指摘した。(情報文化学部長・越智敏夫)

今年度も各講演後、非常に熱心な疑問、質問、意見、あるいは映画への批判

平成23年度 入学者選抜試験概要 (要約一覧)

※詳細は本学学生募集要項でご確認ください。※出願期間は消印有効。

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続き期間
推薦入学試験	高校長推薦 情報文化学科 10	22年11月 1日(月) ~ 11月 9日(火)	22年11月14日(日)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あてに推薦依頼を行います	22年11月18日(木)	22年11月18日(木) ~ 12月 2日(木)
	指定校制 情報システム学科 20						
	高校長推薦 情報文化学科 30				面接・小論文 学力推薦要件: 全体の評定平均値3.8以上またはいずれか1教科の評定平均値が4.5以上であること		
	公募制 情報システム学科 35				面接・小論文 対象科目については、募集要項で確認してください		
社会人入学試験	情報文化学科 若干名				面接・小論文		
	情報システム学科 若干名				面接・小論文		
一般入学試験	前期 情報文化学科 35	23年 1月 5日(火) ~ 1月21日(金)	23年 2月 2日(火)	新潟上越長岡	・国語: 国語総合(現代文)・現代文 ・数学: 数学I・数学II (数学IIは微分・積分を除く) ・外国語: 英語I・英語II 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	23年 2月 8日(火)	23年 2月 8日(火) ~ 2月17日(木)
	情報システム学科 60						
	大学入試センター試験利用 情報文化学科 15	23年 1月28日(金) ~ 2月15日(火)	23年 1月15日(土)・16日(日)の大学入試センター試験を受験していること			23年 2月22日(火)	23年 2月22日(火) ~ 3月 9日(火)
	情報システム学科 20						
	後期 情報文化学科 10	23年 2月14日(月) ~ 3月 1日(火)	23年 3月 9日(火)	新潟	・国語: 国語総合(現代文)・現代文 ・数学: 数学I・数学II (数学IIは微分・積分を除く) ・外国語: 英語I・英語II 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	23年 3月12日(土)	23年 3月12日(土) ~ 3月23日(火)
	情報システム学科 15						

本学独自の奨学金制度 (給付)

- 学費特別給付奨学金(前期入試受験者対象)授業料全額又は1/2
- 表彰奨学金(2~4年生対象)10万円~30万円
- 海外派遣留学・海外研修奨学金(2年生対象)15万円~23万円

- 資格取得奨励奨学金(全学年対象)I種5万円、II種2万円
- 学費臨時給付奨学金(全学年対象)授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせください。 TEL025-239-3111 E-mail gakumu@nuis.ac.jp

高校生はじめどなたでも
ご参加できます!

オープンキャンパス

1回目 7/18日 2回目 8/8日 3回目 10/3日 時間 AM10:00 PM 4:00

会場 新潟国際情報大学 本校 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

- 学部・学科説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試進学相談
- 就職相談
- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 学内見学
- 保護者向けプログラム

参加
お申込み

高校の進路指導の先生、もしくは
右記までお申込みください。

お問い合わせ

新潟国際情報大学 広報係

※変更となる場合もありますので事前にご確認ください。

〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL.025-239-3111 FAX025-239-3690 E-mail soudan@nuis.ac.jp

新入生が1泊2日の合宿研修

新入生を対象に学部・学科などの説明、教員との懇談、サークル紹介、それにレクリエーションなどで交流を深める新入学生合宿研修が4月5日から、本校・みずき野キャンパスと県立青少年研修センターで1泊2日の日程で行われました。

本学設立の趣旨や、スタートした大学生活の自由と規律などの理解を深め、まずは新入生同士が、さらに教職員との親ほくも深めることができました。

情報システム学科では、教員との懇談会にあたって、風船を使って自己紹介をするユニークなクラスもあり、発言の順番がランダムになって、ワクワクドキドキしながらのアイスブレイキングが行われました。

入学早々いきなりの団体行動で、戸惑う学生が多く見受けられましたが、研修終了後には参加学生から、「不安があったけど、知らない人と同じ部屋で過ごして、いろいろな話ができ友

学生にいつその研さんを期待する、本学の表彰奨学金の授与式が6月17日行われ、平山学長が授与証書と奨学金を手渡ししながら激励しました。

学業と課外活動の優秀者を表彰

この奨学金制度は、両学科の学年ごとに、前年度に取得した科目の成績評価が最も優秀であった者(30万円)、または課外活動の振興に尽力し優れた業績を挙げた者(10万円)に授与(給付)するものです。

今回は、学業成績優秀者が15人(情報文化学科6人、情報システム学科9人)、課外活動功労者が3人(情報文化学科2人、情報システム学科1人)の合わせて18人が表彰されました。

18人に奨学金を授与

風船を使った自己紹介も体験

達をつくることができました」(情報文化学科・女子)、「教員の方々からゼミの話の聞いたり、みんなで大縄跳びをしたりして大変有意義な時間を過ごすことができました」(情報システム学科・男子)、「レクリエーションを主催していた学友会の先輩が本当にやさしくてありがたかった」などの感想が。大学生活をより楽しくするための貴重な合宿となりました。



湧源

編集後記に代えて

広報委員長 桑原 悟

この4月から広報委員長を引き受けることになった。これは、小職が広報の才に長けているからでは決してない。教員のだれかが就任する決まりであるからである。そして、この『湧源』は、広報委員長の仕事の一部であるので、必然、小職が書くことになる。

『湧源』の意味するところは、その文字が雄弁に語っている。では、この言葉の出典はと、いろいろと調べてはみたが、いまだにたどり着いてはいない。

そして、その内容であるが、本誌第1号から冒頭に「編集後記に代えて」とある。どうやら、内容は、編集後記ではなくてもいいらしい。実際、諸先輩の『湧源』を拝読すると、実にさまざまなテーマと個性あふれる視点からの作品となっており、この点は、小職を少なからず安心させてくれる。

「それでは、お前の湧源は」と問われれば、その答えは「和食になぞらえるなら『香の物』」といったところであろうか。一本調子になりがちな大学の広報誌のアクセントであり、ある意味では異端役である。本道の原稿をお願いしている諸氏には、とても異端役はお願ひできない。つたない文章で務めるとしよう。

さて、文字数の制限を超えて、編集者を困らせては本末転倒である。第1回目の香の物はどうか。一夜漬け」となってしまうが、初回は、この辺でご勘弁いただく。



国際交流フェアを開催

情報文化学科3年 後藤 春菜

本校の国際交流センターでの展示では、現地での写真をプリントして画用紙に張るのが主な展示内容となりました。写真を選んでいくうちに、留学中の思い出がよみがえってきて、みんなで盛り上がった、なかなか作業が進まなかったのですが、なんとか

海外留学に参加した学生たちの成果の一端を紹介する「国際交流フェア」が4月19日から5月21日まで、本校みずき野キャンパスと新潟中央キャンパスの2会場で開かれました。

留学の裏話も披露

満足のいく、観る人に留学の楽しさを伝えられるような展示物を完成させることができました。

学生ホールでの発表は、例年がない「おもしろさ」をテーマにみんなで考え、韓国ノリや韓国で実際に購入してきたザクロのお茶を配り、思っていた以上に好評で多くの人が集まってくれました。

楽しい思い出に盛り上がる

また、4人そろってチャコゴリを着て、私たち自身もとても楽しく発表することができました。私はMCを務めたのですが、観ている人を退屈させないようにと、留学の裏話やユーモアを交えて場を盛り上げることができました。

構想を練ったり、準備したりと大変なことも多かったですが、日本に帰ってきてから忙しくてあまり会えなかった留学メンバーと再び団結でき、いい体験になったと思います。



青空の下、伝統行事に汗

学内の親ぼくさらに深まる

スポーツ大会は開学を記念して平成6年から毎年、学生間の協調と融和、充実した学園生活を送ることを目的に、学友会が主催して開催しています。ゼミやサークルのチームに教職員チームも加わり楽しく競技に参加して汗を流しました。まずは学生同士の親ばくを深める場であると私は考えているので、満足いく結果を出すことができました。

今年のスポーツ大会の競技は大縄跳び、ミニサッカー、ソフトバレーボール、フリースロー、クイズ大会、紙飛行機大会などを楽しみました。大縄跳び、サッカー、バレーボールは最も人気のある競技で、今年も白熱した試合で会場は大いに盛り上がりました。フリースロー、クイズ大会、紙飛行機大会も非常に好評で去年よりも多くの方々に参加していただきました。私の課題は前年度に発足したばかりの新競技、クイズ大会と紙飛行機大会をいかに盛り上げるかということだったので、より発展した種目にするのができてとてもうれしく思います。

毎春の伝統行事となっているスポーツ大会が5月21日に行われました。曇りの天気予報は、皆さまの気持ちを通じたのか日中は穏やかな青空が広がり、気持ちの良いスポーツ日和となりました。

情報文化学科2年 木村 貴志

スポーツ大会を終えて

情報システム学科2005年度卒業 河治 春樹

卒業生の便り

警察官になり5年目を迎え、今年の4月から新潟北署で勤務しています。今まで主に交番の警察官として、日中夜間のパトロール、各世帯を直接訪問し防犯広報を行う巡回連絡、街頭での交通指導取り締まりに従事してきました。5年目を迎えた今でも、初めて経験することも多く、勉強の日々です。私は、今年の2月全国警察逮捕術大会で団体3位入賞という経験をしました。逮捕術とは、犯人の逮捕制圧に必要な技術で、空手、柔道、剣道などの要素を取り入れた競技になります。新潟県は、全国で同規模程度の16県警が集う2部に属します。前任の新潟西署で勤務した2年

第一線の警察官として5年 逮捕術大会で全国3位の活躍



といます。それらのことは、その時だからこそ経験できるものであり、必ず自分自身を成長させてくれるはずです。現在、新潟国際情報大学の多くの卒業生が、県民の安全、安心を守るため県内各署で活躍しています。さまざまな仕事の中から、警察官という仕事を選ぶ学生もいると思います。そんな皆さんに負けないよう、これからも頑張りたいと思います。

県民の安全・安心を守る

間は、新潟県警の逮捕術特別訓練員として、全国大会優勝を目指して毎日訓練を行い、気力の充実、技術の向上に努めました。遠征を行い、合同訓練、親睦会など他県警との交流を深めることもできました。この経験は、これから先必ず生きてくると思っています。5年後、10年後に同じ経験はできません。学生生活で経験することも同様だと思います。学生の皆さんは、社会に出るまでの貴重な4年間を新潟国際情報大学で過ごし、学業、サークル活動などを通して多くの経験をすると思います。